

平成26年度

与謝野町各会計歳入歳出決算  
及び基金運用状況審査意見書

〔 一 般 会 計 〕  
〔 特 別 会 計 〕  
〔 水 道 事 業 会 計 〕

与謝野町監査委員

27与監第18号  
平成27年8月28日

与謝野町長 山 添 藤 真 様

与謝野町監査委員 足 立 正 人

与謝野町監査委員 有 吉 正

平成26年度与謝野町一般会計及び特別会計歳入歳出決算  
並びに基金運用状況審査意見について

地方自治法第233条第2項、同法第241条第5項の規定により、審査に付された平成26年度与謝野町一般会計及び特別会計の歳入歳出決算並びに基金の運用状況等について審査したので、その結果について次のとおり意見書を提出します。

一 般 会 計 ・ 特 別 会 計  
及 び 基 金 運 用 状 況



## 平成26年度与謝野町一般会計及び特別会計歳入歳出決算

### 並びに基金運用状況審査意見書

#### 審査の対象

平成26年度与謝野町一般会計歳入歳出決算  
平成26年度与謝野町簡易水道特別会計歳入歳出決算  
平成26年度与謝野町宅地造成事業特別会計歳入歳出決算  
平成26年度与謝野町下水道特別会計歳入歳出決算  
平成26年度与謝野町農業集落排水特別会計歳入歳出決算  
平成26年度与謝野町介護保険特別会計歳入歳出決算  
平成26年度与謝野町土地取得特別会計歳入歳出決算  
平成26年度与謝野町国民健康保険特別会計歳入歳出決算  
平成26年度与謝野町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算  
平成26年度与謝野町財産区特別会計歳入歳出決算  
基金の運用状況

#### 審査の実施日

平成27年7月21日	8月 3日
22日	4日
23日	5日
24日	7日
27日	19日 (現場)
28日	24日 (現場)
29日	25日
30日	26日
31日	27日

## 審査の方法

この審査に当たっては、町長から提出された平成26年度与謝野町の一般会計・特別会計歳入歳出決算書、同事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書、基金の運用状況を示す書類等について、関係諸帳簿、証拠書類との照合、事情聴取などにより行った。

## 審査の結果

審査に付した各会計歳入歳出決算書、同事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書及び基金の運用状況を示す書類は、いずれも法令に準拠して作成されており、各計数も関係諸帳簿と符合し、かつ正確であったことを認めた。

なお、細部にわたる意見は次のとおりである。

## 1. 総括

平成 26 年度は、4 月に町長選挙が行われ、初代太田貴美町長から 2 代目山添藤真町長へのバトンタッチの年となった。

予算は、前町長が骨格予算を組み、新町長がこれに肉付けをする形で編成され、執行された。

就任当時、「日本一若い町長」と言われた山添町長は、地域経済の長い低迷の中で、前例にとらわれず、チャレンジする市政の推進を掲げてスタートされたが、平成 26 年度においては、「第 1 次与謝野町総合計画」後期基本計画及び「第 2 次行政改革大綱」に掲げる基本目標に沿って、将来を見据え、慎重かつ安定した地歩を固める施策から取り組まれた。

とりわけ、加悦中学校改築事業、認定こども園整備事業、ごみ焼却施設整備事業、障害者福祉施設整備事業など、間近かに迫る大事業への着実な準備を進めた点は評価できるものである。

昨年制定された「債権管理条例」の運用のもと、公共料金取扱に対する役場の姿勢が変わってきたように思われる。今後とも全機能を挙げて、貴重な債権を管理・確保するよう努められたい。

なお、特に大きな指摘事項はなかった。

## 2. 一般会計

歳入総額 11,710,192,435 円、歳出総額 11,459,121,209 円、歳入歳出差引額 251,071,226 円、翌年度へ繰り越すべき財源 29,473,400 円を差し引いた実質収支額は 221,597,826 円の黒字で、その半額の 110,798,913 円を基金に繰り入れた。

財政状況（普通会計）をみると、財政力指数は 3 カ年平均で 0.297 と前年度に比べ 0.003 ポイント下回った。3 カ年平均の指数と平成 26 年度単年度の指数は同一となった。わずかずつ下がってきており、町財源に余裕がない状況を示している。

経常収支比率は 90.7%で、前年度を 1.0 ポイント上回った。平成 22 年度から増加傾向が続いており、この間 5.5 ポイントも上がった。扶助費や繰出金の増額など、制度や政策上止むを得ないものがあるものの、一般経常経費の節減は、厳しい財政状況の中では必須の課題であり、今後とも経費を抑え、いわゆる財政余力を生む努力を払われたい。

歳入は、調定額 11,846,288,241 円、収入済額 11,710,192,435 円、不納欠損

額 4,646,397 円、収入未済額 131,449,409 円である。

不納欠損額は前年度より 8,250,451 円も減った。そのほとんどが町税で、なおかつ、そのほとんどが 5 年間の消滅時効によるものである。この他、保育料も時効成立のため 1,033,000 円が処分されている。不納欠損自体、大幅に額が減ったことは評価するものの、貴重な町の財源ができるだけ時効に至らないように工夫・努力を払われたい。

収入未済額は前年度より 57,982,916 円も少なくなった。減額の最も大きいものは、府支出金の事業関連委託金 26,690,000 円が無くなったことによる。この他、町税の 20,280,612 円減、諸収入 9,444,496 円の減など、努力をして収入未済を抑えた点も伺える。

収入済額の町税は 1,841,010,605 円で前年度より 7,971,621 円減った。これは、調定額そのものが 33,574,439 円も減ったことによるもので、町税全体の収納率をみると、現年度分は 98.81%と前年度より 0.14%アップ、滞納繰越分は 32.28%と、前年度より 2.88%アップした。京都地方税機構の取組みとそこに至るまでの催告等の努力を評価したい。

地方譲与税、利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、地方消費税交付金、自動車取得税交付金、地方特例交付金、地方交付税及び交通安全対策特別交付金については、金額に大きな増減があるものもあるが、国の施策・制度の変動、または景気の影響などによるものである。

分担金・負担金は 153,271,099 円で、前年度より 5,041,863 円減った。保育料の現年度分が 114,263,260 円で前年度より 7,053,630 円減となったのが主なものである。保育料の滞納繰越分は 4,258,220 円で前年度より 769,835 円増えた。収納率も 15.9%から 25.7%に向上した。

使用料・手数料は 335,654,659 円で、前年度とほぼ同額である。この中で、有線テレビ施設使用料等は伸び、し尿汲取手数料が減っていくのが特徴的である。

国庫支出金は 919,587,988 円で、対前年度比 96,435,258 円、11.7%もの増となった。これは、地域の元気臨時交付金 105,843,000 円が無くなる反面、がんばる地域交付金 26,704,000 円、子育て世帯臨時特例給付金 25,300,000 円、臨時福祉給付金 57,300,000 円、公立学校施設整備費補助金 18,281,000 円等が皆増となり、社会資本整備総合交付金や障害者自立支援等負担金が増額となったことなどによる。

府支出金は 861,612,378 円で、前年度より 31,336,754 円、3.8%増となった。障害者自立支援等負担金 171,749,840 円及び木質バイオマス産業化促進事業費補助金 38,617,000 円が皆増となり、強い農業づくり交付金 13,060,000 円、農業体質強化基盤整備促進事業費補助金 21,000,000 円が無くなったこと

等によるものである。なお、行革交付金及びみらい戦略一括交付金は工夫を凝らして補助金のあたりにくい事業をも対象にしている。

財産収入は15,302,811円で、前年度より905,330円増となった。この中で、金額は少額ながら土地建物貸付収入の徴収に努力している点を評価したい。

繰入金は、5,915,822円で、まとまったものは天橋立岩滝温泉活用基金の繰り入れ4,000,000円である。この中で何とも大きなものは、財政調整基金の繰り入れ0円である。当初予算では365,000,000円の取り崩しを見込んでいたものを補正予算で全額減額できたことは、後々の町財政運営上非常に大きな影響が及ぶと考えられる。

諸収入は255,498,210円で、前年度より15,886,678円増えた。この中でも給食費実費徴収金の徴収に努力していることが伺える。

町債は1,232,637,000円で、前年度より259,305,000円も増えた。中学校整備事業債198,000,000円や臨時財政対策債430,637,000円等、止むを得ないものと考えられるし、又、借入額より起債償還額1,577,938,777円の方が345,301,777円も多いことを考えると、着実に債務が減っているため問題はないものの、当町の将来負担比率や実質公債費比率が京都府下でも高い方に位置していることを常に意に留め、より有利な起債の活用、計画的な借りに努められたい。

その他の収入について、「下水道負担金・分担金の時効成立」問題を教訓として、債権管理を強化し、徴収率アップや時効に至らしめない努力を払っていることが伺える。

歳出は支出済額11,459,121,209円、翌年度繰越額280,606,400円、不用額197,015,391円である。

支出済額は前年度より397,586,911円の増額となった。道路新設改良事業費、大江山体育館整備事業費の減額に対し、中学校施設整備事業費、地区公民館整備事業費、道路長寿命化対策事業費、木質バイオマス産業化促進事業費などが加わったことなどによる投資的経費の増及び義務的経費の内、扶助費の伸びなどによるものと考えられる。

翌年度繰越額は、繰越明許費に計上した事業費であって、前年度より2,944,400円増えた。国の経済対策等によるものである。

不用額は、前年度より25,547,311円減った。一昨年から年度末の専決補正による調整を控えているため多額となっている。

歳出を性質別（普通会計、決算統計によるため千円単位）にみると、人件費は1,769,788千円で、前年度より25,950千円、1.4%減った。職員・特別職給与、報酬のカット等が大きいと考えられる。

物件費は1,868,979千円で、前年度より14,467千円、0.8%減った。基幹シ

システム更新委託料が無くなった等によるものである。なお、経常的な物件費も 9,448 千円減っており、おそらく節減によるものと考えられ評価したい。

維持補修費は 50,000 千円で、前年度より 5,338 千円、9.6%減った。これは、道路橋梁維持補修について、大規模かつ計画的に事業を進めるため、長寿命化対策として普通建設事業費で執行したこと等によるものである。

扶助費は 1,562,324 千円で、前年度より 136,135 千円、9.5%増えた。臨時福祉給付金事業 55,310 千円、子育て世帯臨時特例給付金事業 24,860 千円が皆増した他、障害者自立支援給付費が 58,203 千円も増となったのが主なものである。又、全決算額に占める構成費も 13.6%と上がってきており、今後、年々増え続ける扶助費の伸びを十分予測した上での財政計画及びその執行が必要である。

補助費等は 1,174,207 千円で、前年度より 22,018 千円、1.8%減った。この内、一部事務組合に対するものは、前年度より 42,661 千円、8.1%も増えた。これは、宮津・与謝消防組合に対する建設分負担金増 32,682 千円、宮津与謝環境組合負担金増 4,901 千円等による。両組合とも大事業が計画されているため、これを見越した財政運営が求められる。

公債費は 1,724,704 千円で、前年度より 9,080 千円、0.5%増えた。まだまだ多額の起債借入予定の事業があるため、計画的な起債発行に努め、地方債償還ピークを正確に予測した財政計画の策定が必要と思われる。なお、資金繰りを合理的に行い、一時借入金が無かったことは評価できる。

積立金は 190,603 千円で、前年度より 79,939 千円、29.5%も少なくなった。減債基金積立金が 51,946 千円、有線テレビ放送等施設基金積立金が 25,948 千円減となったのが主なものである。財政調整基金の取り崩しを止めにしたのが精一杯だったと思われる。

貸付金は 14,220 千円で、前年度より 5,570 千円、28.1%減った。商工業者資金の借入残高が少なくなり、預託金が減っているものである。

繰出金は 1,988,599 千円で、前年度より 89,603 千円、4.7%増えた。その内、下水道特別会計繰出金は 818,390 千円で、76,537 千円も増えた。又、簡易水道特別会計繰出金は建設分が 13,000 千円、皆増。一般分が 167,600 千円、35,731 千円増となっており、これらの負担は町決算規模の 17.4%にも及んでいる。

投資的経費の内、普通建設事業費は 1,105,355 千円で、前年度より 294,169 千円、36.3%も増えた。中学校整備事業費や道路橋梁長寿命化対策事業費が多額執行されてきたことや明石公民館整備事業、木質バイオマス産業化促進事業に取り組んだことなどによる。

野田川駅（現与謝野駅）の利用について、高齢者片道 200 円レールを導入

したことにより、年間利用者数が 23,354 人と前年度より 405 人増えた。逆に KTR 手数料は 939,977 円で、前年度より 57,554 円減った。今後、京都丹後鉄道の経営手腕に期待したい。

野田川衛生プラントの運営については、伊根町受託使用料が伸び、直営収集分手数料が減るという傾向である。施設整備工事、収集車計測器取替・取付工事及び収集車購入、設備機器購入については適正に行えている。

火葬場について、使用料・手数料収入は 8,504,500 円で、前年度より 2,030,000 円減った。町外からの収入が 2,122,000 円減っており、丁度相当額となった。今年度最後の運営となり、今後、指定管理者に委ねていくことになる。

学校給食センターは、橋立中学校への配食開始から 3 年目となり、大きな改修や設備投資などは無く、調理備品の購入、空調設備修理が目立つ程度である。

### 3. 簡易水道特別会計

決算は歳入総額 751,067,505 円、歳出総額 748,229,676 円、歳入歳出差引額 2,837,829 円の黒字である。

水道使用料は 310,697,885 円で、前年度より 3,852,465 円の増である。徴収率は現年度分が 99.45% (前年度と同じ)、滞納繰越分が 17.02%と前年度より 1.74%ダウンした。

未納者は現年度分 184 名で、前年度より 1 名増、滞納繰越分が 177 名で前年度より 9 名増となった。

不納欠損額は 30,420 円、1 名分である。

事業面において、引き続き統合簡水与謝・加悦簡易水道事業に取り組み、平成 26 年度は、桜内浄水場改良工事、温江低区配水池などを整備した。

基金積立金は、今年度も財政調整基金に 4,479,491 円、減債基金に 10,588,626 円積み立てた。

水道水の有収率について、92.7%と前年度を 0.9%上回った。少しずつではあるが、毎年度向上していることを評価したい。

#### 4. 宅地造成事業特別会計

決算は歳入、歳出とも0円である。

紹介制度も活用しながら、未売区画の売り払いに努力されたい。まだ、21区画が残っている。

#### 5. 下水道特別会計

決算は歳入総額1,660,959,708円、歳出総額1,657,919,020円、歳入歳出差引額3,040,688円の黒字である。

下水道使用料徴収率は、公共現年度分99.8%（前年度より0.1%増）、公共滞納繰越分20.0%（前年度より9.0%増）、特環現年度分99.7%（前年度より0.1%増）、特環滞納繰越分22.8%（前年度より6.8%増）である。

全てにおいて徴収率がアップしており、取組みを評価したい。収入未済額は現年度分・滞納繰越分合わせて、公共897,511円（前年度902,745円）、特環1,790,805円（前年度2,243,697円）で減っている。

不納欠損額は、公共13,480円2名分、特環447,135円8名分である。いずれも5年間の消滅時効によるものであり、対策に努められたい。

宮津湾流域下水道排水負担金は公共104,814,592円、特環193,262,545円で、使用料収入は現年度分・滞納繰越分及び一時使用料も合わせて、公共93,075,278円、特環171,782,121円である。排水負担金が大幅な増となり、「カラ水量」が発生した。

水洗化率は、公共82.4%（前年度81.9%）、特環66.5%（前年度64.3%）、全体70.8%（前年度69.1%）である。水洗化率の向上になお一層努められたい。

#### 6. 農業集落排水特別会計

決算は歳入総額41,121,741円、歳出総額41,011,437円、歳入歳出差引額110,304円の黒字である。

水洗化率は66.5%（前年度66.3%）で、0.2%向上している。奥滝地区79.1%（前年度77.4%）で1.7%増、温江地区は60.2%（前年度60.2%）で伸びがない。下水道と同様に水洗化率の向上に努められたい。

## 7. 介護保険特別会計

### (事業勘定)

決算は歳入総額 2,602,309,635 円、歳出総額 2,601,995,162 円で、歳出歳入差引額 314,473 円の黒字である。

歳出の主なものは、保険給付費 2,512,742,510 円(前年度 2,425,978,573 円)で 86,763,937 円(3.58%)の増となっている。

介護保険料は 659,000 円の不納欠損処分(前年度 917,337 円)を行っている。収入未済額は 8,539,297 円(前年度 8,309,830 円)で、増加の傾向にある。

徴収率は現年度分が 91.93%(前年度 90.97%)、滞納繰越分は 19.80%(前年度 15.75%)と向上している。時効到来が 2 年と短いため、足しげく訪問しているとのこと。取組みを評価する。

### (サービス勘定)

決算は歳入総額 15,132,301 円、歳出総額 15,132,301 円、歳出歳入差引額 0 円である。

## 8. 土地取得特別会計

決算は歳入総額 351,590 円、歳出総額 15,397 円、歳入歳出差引額 336,193 円の黒字である。

土地開発基金利子を同基金に積み立てるだけの会計となっている。整理について検討されたい。

## 9. 国民健康保険特別会計

### (事業勘定)

決算は歳入総額 2,793,232,811 円、歳出総額 2,785,496,773 円、歳入歳出差引額 7,736,038 円の黒字となり、半額の 3,868,019 円が財政調整基金に積み立てられている。

国民健康保険税の収入未済額は 137,433,337 円で前年度より 31,866,074 円減っているが、8,845,461 円もの多額の未納欠損額を処理している。内訳は、執行停止後 3 年を経過したもの 12 件 772,317 円、5 年間の消滅時効 45 件 8,073,144 円である。国民健康保険税全体の徴収率は現年度分 95.60%で、前年度より 0.46%増、滞納繰越分は 26.94%で、前年度より 4.17%増である。

取組みを評価するが、今後、京都地方税機構との連携を密に努力されたい。

#### (直診勘定)

決算は歳入総額 87,961,963 円、歳出総額 87,918,666 円、歳入歳出差引額 43,297 円の黒字（前年度 296,653 円）である。一般会計より 4,500,000 円（前年度は 5,500,000 円）繰り入れされている。

診療収入は 81,880,295 円（前年度 65,130,136 円）で、訪問リハビリを平成 25 年 10 月から休止したにもかかわらず、前年度比 25.7%の増となった。

医師・職員の努力を評価したい。

今後、訪問リハビリ事業に力を入れることで、診療収入アップと医療費の抑制に繋がるのではないかと期待する。

### 1 0．後期高齢者医療特別会計

決算は歳入総額 267,402,141 円、歳出総額 263,653,553 円、歳入歳出差引額 3,748,588 円の黒字となった。

普通徴収保険料の現年度分については、未納件数 4 件で 13 件の減、収納率は 99.93%で 0.81%上がった。

滞納繰越分は、未納件数 8 件で 3 件の減、収納率は 67.16%で対前年 40.7%増となった。徴収努力が認められる。

不納欠損額は前年 1 件 4,373 円であったが、平成 26 年度は 1 件 1,774 円である。

### 1 1．財産区特別会計

18 財産区あり、決算は歳入総額 91,000,755 円、歳出総額は 21,709,925 円、歳入歳出差引額 69,290,830 円の黒字となった。

### 1 2．基金の運用状況

積立金は 5,598,671,467 円、運用基金（土地含む）は 416,154,713 円、合計 6,014,826,180 円で、前年度より 246,980,999 円増加した。

適正な管理と運用を望みたい。





# 水道事業会計

27 与監第19号  
平成27年8月28日

与謝野町長 山 添 藤 真 様

与謝野町監査委員 足 立 正 人

与謝野町監査委員 有 吉 正

平成26年度与謝野町水道事業会計決算審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により、審査に付された平成26年度与謝野町水道事業会計の決算について審査したので、その結果について次のとおり意見書を提出します。

# 平成26年度与謝野町水道事業会計決算審査意見書

## 審査の対象

平成26年度与謝野町水道事業会計決算

## 審査の実施日

平成27年8月3日

## 審査の方法

決算の審査に当たっては、事業が地方公営企業法第3条の規定の趣旨に沿って運営されているか、又決算書類は事業の財政状態及び経営成績を適正に表示しているか等について、関係諸帳簿及び証拠書類と照合し、合せて関係職員の説明を求めるとともに、既の実施した例月出納検査の結果を参考にして行った。

## 審査の結果

審査に付された決算報告書及び財務諸表は、関係法令に準拠して作成され、その計数は正確であり、会計諸帳簿と証拠書類との照合の結果も符合した。

従って、これら審査に付された書類は、平成26年度の経営成績及び当該年度末における財政状態を適正に表示しているものと認めた。

また、平成26年度における予算の執行においても、概ね適正に執行されていると認めた。

なお、決算数値等は次のとおりである。

(収益的収支)・・・消費税抜き

決算は事業収益 158,249,961 円に対し、事業費用 171,575,157 円で、損失 13,325,196 円は純損失として処理されており、損失額は前年度より 6,277,751

円減少している。

(資本的収支)

決算は資本的収入 1,636,200 円、資本的支出 72,097,605 円で、不足する額 70,461,405 円は、当年度分損益勘定留保資金 68,809,761 円及び消費税資本的収支調整額 1,651,644 円で補てんしている。

水道事業会計

科 目	収 入		支 出		処理・補てん	
収益的収支 (消費税抜き)	営業収益	132,343,930	営業費用	149,384,118	当年度 未処理欠損金	13,325,196
	営業外収益	25,906,031	営業外費用	18,465,377		
			特別損失	3,725,662		
資本的収支 (消費税込み)	資本的収入	1,636,200	資本的支出	72,097,605	不足額補てん	70,461,405

